

コヤブラン *Liriope spicata* Lour.

キジカクシ科 Asparagaceae

1. 利用対象部位：葉

2. 組織形態： 暖温帯の林床に群生する多年生常緑草本で、葉は細長く、幅4-7mm、長さ10-30cm。葉は扁平で表裏とも平滑。葉の中部では薄い扁平 (A) で、中央に太い維管束が1本、両縁に近いところに次に太い維管束が一对、中央脈との間にやや太い脈が間隔を置いてあり、さらにそれらの維管束の間に細い維管束が配置し、合計10~15本程の維管束がある。維管束は並立型で両縁に近い位置の維管束の木部は葉の中心を向く (C) が、その他の維管束は上面 (向軸側) を向いている。木部は細い道管からなり、原生木部の位置が明確でない (D)。篩部は下面 (背軸) 側にあり、篩管は細く、繊維組織に混じって散在する (D)。維管束全体を繊維細胞群が取り囲むが、木部側で量少なく、篩部の下面側に厚く帽子状にある。表皮は1細胞層で、クチクラがよく発達している (D)。

3. 利用例：知られていない

4. 遺跡出土遺物：知られていない

図説明

A:葉中部の横断面。葉は薄く、扁平で、中央に一番太い中央脈が1本、両縁近くに左右一对のやや太い維管束、それと中央脈の間に同じくらいの大きさの維管束が各1本あり、それらの葉脈間にさらに細い維管束が間隔を開けてあり、この葉の維管束の合計は15本。太い維管束の上面は山状に盛り上がる。B:葉身中部の中央部の横断面。5本の維管束が見える。C:葉身中部の右側縁辺部。5本の維管束が見える。右端の維管束の木部は葉の中央側を向き、左にある維管束もその傾向がある。D: 葉身中部の中央部の横断面拡大 (写真上が向軸面)。1細胞層の表皮の内側には厚壁細胞からなる1~3細胞層の下表皮がある。

